

第3章



障害当事者・支援者・地域の 人たちとの共働

(1) 障害当事者・支援者・ 地域の人たちとの共働

障害のある人たちの様々な場面へのアクセシビリティの拡充を目的に、これまで芸術鑑賞をきっかけに実践してきた工夫や合理的配慮をまちに広げる取り組みを行いました。NO-MAとその周辺エリアで開催された、ボーダレス・エリア近江八幡芸術祭「ちかくのまち」(*)を実践の場として、作品を鑑賞することに加え、展覧会やNO-MA周辺の店舗の情報を知的障害の人や視覚障害の人にわかりやすく伝える方法について検討しました。また、取り組みにあたっては障害当事者や支援者、地域店舗の方々との共働を前提としました。



※ボーダレス・エリア近江八幡芸術祭「ちかくのまち」滋賀県近江八幡市を舞台として、障害の有無に関わらず、誰もが「観る」ことや「創る」ことを楽しみ、多様な人々が有機的に「繋がる」エリアの形成を目的とした芸術祭です。今年度は、展覧会「ちかくのまち」を、NO-MA、奥村家住宅、近江八幡市安土B&G海洋センター、よしきりの池を会場として開催しました。主催：アール・ブリュット魅力発信事業実行委員会 助成：令和2年度文化庁 地域と共働した博物館創造活動支援事業



盲ろう者、支援者へのヒアリングの様子

(2) 目で見ただけではない 鑑賞方法を考える

「ちかくのまち」において、盲ろうの人や視覚障害の人でも目で見ない方法で平面の作品を鑑賞できるように、鑑賞サポートツールを制作しました。盲ろうの人と楽しむ鑑賞方法について、展覧会の企画に関わった学芸員、空間デザイナー、デジタルメディア専門家が、しが盲ろう者友の会岡田理事長（盲ろう）と支援者へのヒアリングを実施しました。ヒアリング後、杉浦篤さんの写真作品を基に鑑賞サポートツールを制作し、作品とともに展示しました。鑑賞サポートツールは、以下3つのものから構成されました。

作品のレプリカ 実際の作品の様子を触って確認できるよう、レプリカ（複製）を作りました。原寸大のレプリカに触れることで、大

きさや形がわかります。また、作者が何度もなでて擦れた表面の様子も再現しました。

立体コピー 作品に写っている被写体の輪郭をなぞって、線状で表現。その線を立体的に盛り上げた立体コピー（触図）を作成しました。大きさを拡大することによって、細部がわかるようにしました。

アクリル容器に入った素材 作品に写っている落ち葉、砂浜の砂、石等をアクリル容器に入れて、実物を触ることで写っている場所の雰囲気を感じられるように展示しました。

作品とともに展示された作品の紹介文は点字も用意しました。また、弱視の人でも作品を見て楽しめるように、写真作品の画像を自分が見たい大きさに拡大縮小できるツールも取り入れました。展示台の上にある機器に

手をかざし、手のひらを近づけたり遠ざけたりすることで、目の前に映し出された作品画像を小さくしたり、大きくしたりできます。リープモーション(※)を使用することで、非接触で操作できるようにしました。コロナ過において、岡田理事長から「盲ろうの人はものに触れることが多いため、展覧会では感染症対応をしっかりと行ってほしい」という意見が上がったことを受け、非接触型のツールを制作しました。

※リープモーション・・・掌を機器にかざすことによりジェスチャーで直観的に操作することができる入力機器。パソコンに取り込んだ作品画像をマウスや画面タッチを用いずに画像の選択、拡大、縮小の操作ができる非接触型のシステムです。

(3) 障害当事者・支援者・専門家へのヒアリング

展覧会での芸術鑑賞だけでなく、その周辺のまちの魅力も味わえるように、アクセシビリティをまちに広げる試みも併せて行いました。障害種別により、コミュニケーションの方法や情報を得る手段は様々です。お店のメニューや情報をわかりやすく入手できるように、写真付きのメニューや、点字メニュー、音声メニュー等を作成することにしました。これらを作成するにあたり、障害当事者、支援者、専門家へのヒアリングを実施し、普段の外出時の様子や、外食時の困りごと等について伺いました。

軽度知的障害者

・漢字が読めない時は、読める部分(ひらがな)で想像する。写真がないのは困る。

知的障害支援者

- ・写真メニューや情報の視覚化が重要である
- ・値段はすべて税込価格で表示する(※)と計算しやすい。
- ・カテゴリ化されていない手書きメニューはわかりにくい。

※消費税転嫁対策特別措置法の適用期限が令和3年3月31日で終了するので、令和3年4月1日からは税も含まれた総額表示が義務付けられます。

視覚障害者

- ・普段はメニューを選ぶのが大変なので適当に頼んでしまう。
- ・点字メニューがあると嬉しい。(点字利用者)
- ・QRコードで読み上げる機能があれば便利だと思う。

視覚障害支援者

- ・視覚障害者の点字離れが進んでいる一方、点字は文字として必要である。
- ・晴眼者のスマートフォン利用率に比べると視覚障害者の利用率は低いけれども、視覚障害者は、70代、80代でもスマートフォンの勉強をしたいという人が多い現状にある。

広瀬浩二郎さん(国立民族学博物館准教授)

自身も視覚障害者である広瀬さんからは、音声メニューについて、最初にメニューが何種類あるか読み上げるとわかりやすいとの指摘がありました。また、地域のお店を紹介する音声ガイドは、基本情報だけでなく、話し手の主観が入ると面白いのではないかという提案もいただきました。



鑑賞サポートツール

(4) 地域へのアクセシビリティの拡充

近江八幡市にある地域店舗に協力いただき、バリアフリーメニューを作成し、各店舗にメニューを設置しました。また、展覧会に合わせて音声ガイドや周辺マップも共働して作りしました。

(協力店舗：ほりかふえ、明治橋 あまな、THREE CAFE、Going Nuts!、食堂ヤボネシア、初雪食堂、市、Kolmio、ふな幸、万吾樓)

①バリアフリーメニュー

知的障害の人や視覚障害の人でも地域の店舗を利用しやすくなるように、NO-MA周辺の店舗と協力してバリアフリーメニューを作成しました。

バリアフリーメニューは、【やさしいメニュー、点字メニュー、音声メニュー】の総称です。

やさしいメニュー

- ・商品の写真を掲載
 - ・漢字にルビあり
 - ・読みやすいフォントを使用
 - ・説明文は分かち書き
 - ・アレルギー表示(特定原材料7品目)を掲載
- 対象は、知的障害の人、漢字や難しい文章を読むのが苦手な人、子供、簡易な日本語を使う外国の人を想定しました。

点字メニュー

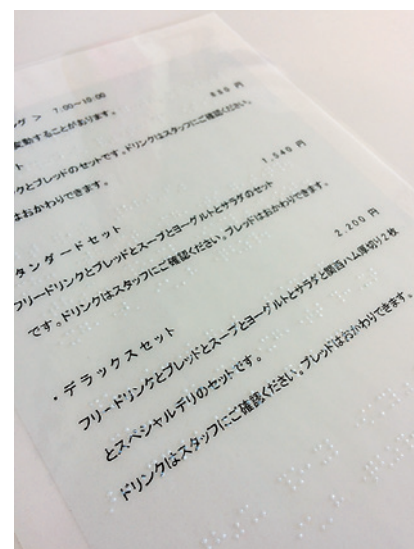
店舗のメニューを点字にしました。また、目が見える人もその内容がわかるよう墨字の上に点字シールを貼り付けました。

音声メニュー

点字を使わない視覚障害の人でもメニューがわかるように、音声メニューを作り、そのQRコードを点字メニューに掲載しました。音



やさしいメニュー



点字メニュー



周辺マップ

声メニューは、はじめにジャンルごとのメニュー数を伝えることで、聞く人が予め総数をイメージできるようにしました。また、商品名でなく、番号でも覚えられるように商品名の前に番号を振りました。

②音声ガイド

展示作品の情報や協力店舗の魅力を音声で聞くことができる「美保さんガイド」を制作しました。「美保さん」は、展覧会に出展していた平野智之さんの作品に登場するキャラクターで、「美保さんガイド」はそのキャラクターをぬいぐるみ化した音声ガイドです。各展覧会場と協力店舗に「美保さんガイド」を利用できる案内板を配置しました。「美保さんガイド」は、視覚障害の人の情報を補うだけでなく、掲示されている文字情報にはない情報や、「美保さん」視点の感想も聞くことができるという特徴を持たせました。

③周辺マップ

展覧会「ちかくのまち」の各会場、バリアフリーメニュー設置店、休憩所、バス停、トイレなど町のどこに何があるのかわかるマップを制作しました。必要な情報を確認することにより、安心してまちを巡れるように工夫しました。特徴は、手持ちサイズ、見やすいフォント、ピクトグラムを用いた説明等です。また、マップに掲載しているQRコードをスマートフォンで読み込むと、オンライン版の周辺マップ上で自分のいる位置を確認することができます。

④ルート案内動画

NO-MAの最寄り駅であるJR近江八幡駅からNO-MAまでの行き方を動画で見るこ

ができるルート案内動画を作成しました。地図が苦手な人やこれまでNO-MAに訪れたことがない人もパソコンやスマートフォンがあれば歩いている目線で経路を確認できます。



ルート案内動画

(5)地域店舗の声

展覧会終了後、協力店舗に今回の取り組みについての感想や意見をお聞きしました。
回答数：10(一部抜粋)

- ・障害のある方が来られたときに対応できるので、店として助かります。対象の方が来られないのが残念でした。
- ・障害がある方がいらしたときの対応を考える良い機会をいただきました。
- ・店に来るまでの、誘導・介助が無ければ、障害のある方はなかなか来れないと思います。
- ・店としては、今までの状態から一歩前進できたような気がします。これからも、このような機会があれば、どんどん参加していきたいと思います。又、普段から障害のある方がお店に来やすくなれるように努力していきたいと思いました。
- ・今後も多様性のある方々が集うステキなイベントよろしくお願ひいたします！
- ・うちは2階に上がらないといけないので、平地の方が入りやすいと思いました。
- ・メニューは写真もあり、皆さんに説明しやすかったです。
- ・誰にも優しいメニューでした。
- ・やさしいメニューはご年配の方にも人気でした。